学校番号	T3009

令和８年度　工業科

教科	工業	科目	建築構造	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	建築構造（実教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

建築構造では、まず、どのような工法があるのかを知ることから始まります。そして、身の回りにある建築物を各構造別に分類した上で、その工法や部材、あるいはそれらの選定に関わる法律で定められた規定や規格などを理解します。学習する素材として取り上げるのは、毎日の生活の場である住宅と、身近な場所である学校が主になります。それらが、どのような部材を用いてどのように作られているか、それをどのように使用しているかを学びます。

2　学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，建築物の構造の提案に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
【知識及び技術】建築物の構造について荷重に対する安全性や材料の特性を踏まえて理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】建築物の構造や建築材料に関する課題を発見し，技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】安全で安心な建築物の構造を実現する力の向上を目指して自ら学び，建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	建築物の構造や建築材料に関する基礎的な知識や技術を身につけ、現代社会における建築物の構造や建築材料の意義や役割を理解している。	建築物の構造や建築材料に関する基礎的な知識や技術の習得をもとに、建築物の設計や施工をする際に生じる諸問題の解決を目指して自ら思考し、判断したり創意工夫する能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現できる。	建築物の構造や建築材料に関心をもち、これらに関する基礎的な知識や技術の習得に意欲をもって取り組むとともに、建築物の設計や施工に活用しようとする態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第１章　建築構造のあらまし	1　建築構造の歴史的発達 2　建築構造のなりたち 3　建築構造の分類 4　建築物に働く力 5　関連する法規と規準	a:・建築構造の歴史的発達、なりたち、分類に関する基礎的な知識を身に付け、身近な建築物や歴史的建築物を取り巻く社会的な環境や意義、技術の概略を理解している。 ・建築物に働く力、関連する法規・規準に関する基礎的な知識を身に付け、身近な建築物に用いられる技術や法規・規準の社会的意義や役割の概略を理解している。 b:・建築構造の歴史的発達、なりたち、分類に関する基礎知識をもとに、身近な建築物を観察し、建築構造の歴史的発達、なりたち、分類について考え、それぞれの区分について思考し，判断できる能力を身に付けるとともに、その成果を適切に発表できる。 ・建築物に働く力、関連する法規・規準に関する基礎的な知識をもとに、身近な建築物に生じる事象や事例を思考し、判断できる能力を身に付けるとともに、その成果を適切に発表できる。 c:・建築構造の歴史的発達、なりたち、分類についての基礎的な知識について関心を持ち身近な建築物を積極的に観察するなど、その習得にむけて意欲的に取り組むとともに、今後の学習に活用しようとする態度を身に付けている。 ・建築物に働く力、関連する法規・規準についての基礎的な知識について関心をもち、身近な事象や事例を観察するなど、その習得にむけて意欲的に取り組むとともに、今後の学習に活用しようとする態度を身に付けている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	提出ノート 振り返りシート
	第２章　木構造	1　構造の特徴と構造形式 2　木材 3　木材の接合	a:木構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識や技術を身に付け、現代の技術の観察をふまえ、産業社会や生活文化における木構造に用いられる建築材料の意義や役割を理解している。 b:木構造のうち、おもに在来軸組構法に用いられる建築材料に関する基礎的な知識や技術をもとに、身近な建築物を観察し、建築材料について考え、自ら構想する建築物に適する建築材料を適切に判断し、選択できる能力を身に付けるとともに、その成果を適切に発表できる。 c:木構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識や技術に関心をもち、その習得にむけて意欲的に取り組むとともに、建築製図や建築実習など関連する科目に活用しようとする実践的な態度を身に付けている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	提出ノート 振り返りシート

前期	第２章　木構造	4　基礎 5　軸組 6　小屋組 7　床組	a:木構造のうち、おもに在来軸組構法の構造形式や構成部材に関する知識や技術を身に付け、現代の技術の観察をふまえ、産業社会や生活文化における木構造の意義や役割を理解している。 b:木構造のうち、おもに在来軸組構法の構造形式や構成部材に関する知識や技術をもとに、身近な建築物を観察し、構造形式や構成部材について考え、自ら構想する建築物に適する構造形式や構成部材を適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けるとともに、その成果を適切に発表できる。 c:木構造のうち、おもに在来軸組構法の構造形式や構成部材に関する知識や技術について関心をもち、その習得にむけて意欲的に取り組むとともに、建築製図や建築実習など関連する科目に活用しようとする実践的な態度を身に付けている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	提出ノート 振り返りシート
後期	第３章　鉄筋コンクリート構造	1　構造の特徴と構造形式 2　鉄筋 3　コンクリート	a:鉄筋コンクリート構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識や技術を身に付け、現代の技術の観察をふまえ、産業社会や生活文化における鉄筋コンクリート構造に用いられる建築材料の意義や役割を理解している。 b:鉄筋コンクリート構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識や技術をもとに、身近な建築物を観察し、建築材料について考え、自ら構想する建築物に適する建築材料を適切に判断し、選択できる能力を身に付けるとともに、その成果を適切に発表できる。 c:鉄筋コンクリート構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識や技術に関心をもち、その習得にむけて意欲的に取り組むとともに、建築製図や建築実習など関連する科目に活用しようとする実践的な態度を身に付けている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	提出ノート 振り返りシート

後期	第4章 鋼構造	1 構造の特徴と構造形式 2 鋼と鋼材 3 鋼材の接合	a:鋼構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識や技術を身に付け、現代の技術の観察をふまえ、産業社会や生活文化における鋼構造に用いられる建築材料の意義や役割を理解している。 b:鋼構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識や技術をもとに、身近な建築物を観察し、建築材料について考え、自ら構想する建築物に適する建築材料を適切に判断し、選択できる能力を身に付けるとともに、その成果を適切に発表できる。 c:鋼構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識や技術に関心をもち、その習得にむけて意欲的に取り組むとともに、建築製図や建築実習など関連する科目に活用しようとする実践的な態度を身に付けている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	提出ノート 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度